



国立大学法人
奈良国立大学機構
NARA NATIONAL INSTITUTE OF HIGHER EDUCATION AND RESEARCH

環境報告書2023

ENVIRONMENTAL REPORT



CONTENTS

1	奈良国立大学機構理事長メッセージ	1
2	奈良国立大学機構概要	
	奈良教育大学概要	2
	奈良女子大学概要	3
3	環境管理体制・環境方針等	
	3-1 奈良国立大学機構環境管理体制	4
	3-2 奈良国立大学機構環境方針	5
	奈良教育大学環境方針・奈良女子大学環境方針	
	3-3 環境マネジメントの取組	7
	奈良教育大学環境マネジメント・奈良女子大学環境マネジメント	
	3-4 CO ₂ 排出量削減の取組	7
4	エネルギー使用量	
	電気・ガス・水使用量	9
	CO ₂ 排出量	9
	灯油・ガソリン・軽油使用量	10
5	グリーン購入・調達の実績	
	特定調達物品調達実績（過去5年分）	10
6	廃棄物・実験廃液・PRTR制度	
	廃棄物の排出量	11
	実験廃液の排出量	11
	PRTR対象物質の取扱量	12
7	環境教育	13
8	環境に関する地域との取組	14
9	環境省「環境報告ガイドライン2018年版」との対応表	16

1 奈良国立大学機構理事長メッセージ

環境保全に向けた奈良国立大学機構・奈良教育大学・奈良女子大学の取組み

奈良国立大学機構理事長
榊 裕之



千年を越え、自然と文化を守り育ててきた奈良の中心部に位置する奈良教育大学と奈良女子大学は、「次代を牽引する教員の養成」と「社会をリードする女性人材の育成」の使命を果たす中で、持続可能な社会の構築に向けて独自の環境保全への取組みを進めてきました。2022年4月の両大学の法人統合以降も、環境保全の取組みを一段と強めています。

さて、エネルギーと物質の大量消費が惹き起こす世界的な環境問題を前に、どの大学にも真剣な対応が求められています。特に、(A) 大学は教育や研究のために電力や物質を大量に使い、(B) 二酸化炭素を含め廃棄物を多く出し、環境に負荷を与えており、その実体を把握し、低減を図ることが必須です。また、高等教育機関として、教職員と学生が、環境保全や安全確保への意識と知識を高め、(C) 化学物質やプラスチックなどを適正に管理し、消費量の削減や再活用に向けて、指針の整備や環境教育を進める必要があります。さらに、(D) 教育・研究機関として、地域社会やグローバル社会との関係の中で、次世代を含めた市民の環境問題の理解の深化を促す活動を先導し、同時に、問題の緩和や解決のため、産業界や自治体との連携も強めることで、環境問題に関する研究を進めることも重要です。本報告書には、本機構と傘下の二大学による環境保全に関する取組みの概要を記しました。

まず、本法人と傘下の二大学に関し、附属学校園も含め、組織とキャンパスの概要を紹介した後、法人と二大学による環境問題への取組みの方針と管理体制およびマネジメントについて記しました。続いて、両大学による電気・ガス・水の使用量と二酸化炭素の排出量の年次変化、特定調達物品の調達状況からみたグリーン購入の実績、実験廃液の排出状況やPRTR（化学物質排出・移動量届出制度）に基づく実績データを示しました。また、環境に関する教育・研究の事例として、脱炭素社会実現に必要とされる人材育成を目的とする、教養教育プログラムの立ち上げを紹介しています。さらに、奈良教育大学の教職員と学生が一貫して推進してきている「持続可能な開発のための教育（ESD）」のための最近の取組み、奈良女子大学の「大和・紀伊半島学研究所による「総合流域学」をコンセプトとする「リカレント教育」に関する活動を紹介しています。

本報告書について、忌憚のないご意見を頂くことで、本法人と傘下の二大学の環境保全の取組が着実に進化するように願っております。どうか、ご鞭撻のほど、お願いいたします。

2 奈良国立大学機構概要



奈良教育大学概要

◆高畑団地 1

所在地：奈良県奈良市高畑町

創設：1888年（明治21年）

学生等数：1,245人

（外国人留学生を含む）

役員及び教職員数：136人

学部等の構成：教育学部

敷地面積：1,809,164㎡

建物延面積：59,933㎡

◆高畑団地 2

所在地：奈良県奈良市高畑町

創設：1889年（明治22年）

構成：附属小学校、特別支援学級

施設数：8棟

学級数：21（18+3）

◆高畑団地 3

所在地：奈良県奈良市高畑町

創設：1927年（昭和2年）

構成：附属幼稚園 ※

施設数：6棟

学級数：5（1+2+1+1）

※2024.4- 附属幼保連携型認定こども園

◆佐保田団地

所在地：奈良県奈良市法蓮町2058-2

創設：1947年（昭和22年）

構成：附属中学校

構成員：30名（教員その他職員）

敷地面積：30,079㎡

建物延面積：5,787㎡

施設数：9棟

学級数：15（12+3）

◆白毫寺団地

所在地：奈良県奈良市白毫寺町

創設：1966年（昭和41年）

構成：自然環境教育センター

施設数：6棟

◆大塔団地

所在地：奈良県五條市大塔町清水

創設：1959年（昭和34年）

構成：自然環境教育センター

施設数：3棟

◆上高畑団地

所在地：奈良県奈良市高畑町1252

創設：1959年（昭和34年）

構成：学生寄宿舍（国際）

施設数：2棟



キャンパスマップ



高畑団地 2 附属小学校



高畑団地 3 附属幼稚園
(2024.4- 附属幼保連携型認定こども園)



佐保田団地 附属中学校

◆紀寺団地

所在地：奈良県奈良市紀寺町834

創設：1960年（昭和35年）

構成：学生寄宿舍（橘寮）

施設数：2棟



奈良女子大学概要

◆北魚屋団地

所在地：奈良県奈良市北魚屋東町
 創設：1908年（明治41年）
 学生等数：2,631人
 役員及び教員数：207人
 学部等の構成：文学部、理学部、
 生活環境学部、工学部、大学院
 人間文化総合科学研究科
 敷地面積：180,310㎡
 建物延面積：96,863㎡

◆半田団地

所在地：奈良県奈良市半田横町14
 構成：学生寄宿舎
 敷地面積：10,175㎡
 建物延面積：7,758㎡
 施設数：4棟

◆学園北団地

所在地：奈良県奈良市学園北1丁目16-14
 構成：附属幼稚園
 敷地面積：7,947㎡
 建物延面積：1,188㎡
 施設数：5棟

◆百楽園団地

所在地：奈良県奈良市百楽園1丁目7-28
 構成：附属小学校
 敷地面積：17,464㎡
 建物延面積：4,622㎡
 施設数：12棟

◆東紀寺団地

所在地：奈良県奈良市東紀寺町1丁目60-1
 構成：附属中等教育学校
 敷地面積：58,521㎡
 建物延面積：12,819㎡
 施設数：22棟

◆法蓮団地

所在地：奈良県奈良市法蓮町772-1
 構成：NWU奈良会館
 敷地面積：255㎡
 建物延面積：172㎡
 施設数：1棟

◆北小路団地

所在地：奈良県奈良市北小路町
 構成：国際交流会館
 敷地面積：1,684㎡
 建物延面積：1,502㎡
 施設数：1棟

◆吉野団地

所在地：奈良県吉野郡東吉野村
 大字木津川字西ノ上297-3
 構成：東吉野自然環境研究施設
 敷地面積：443㎡
 建物延面積：120㎡
 施設数：2棟



キャンパスマップ



学園北団地 附属幼稚園



百楽園団地 附属小学校

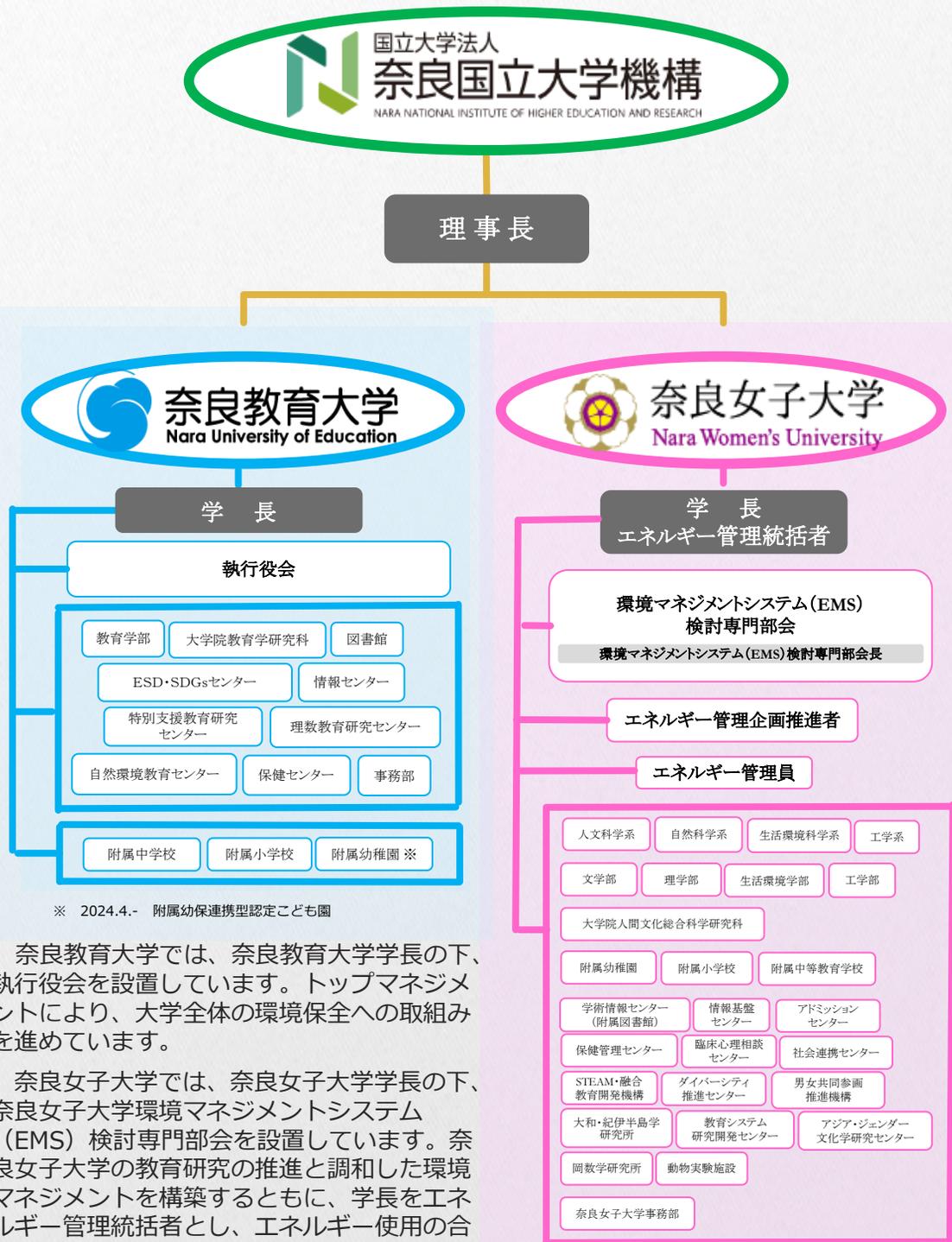


東紀寺団地 1 附属中等教育学校

3 環境管理体制・環境方針等

3-1

奈良国立大学機構環境管理体制



※ 2024.4.- 附属幼保連携型認定こども園

奈良教育大学では、奈良教育大学学長の下、執行役員会を設置しています。トップマネジメントにより、大学全体の環境保全への取組みを進めています。

奈良女子大学では、奈良女子大学学長の下、奈良女子大学環境マネジメントシステム(EMS)検討専門部会を設置しています。奈良女子大学の教育研究の推進と調和した環境マネジメントを構築するとともに、学長をエネルギー管理統括者とし、エネルギー使用の合理化及び温室効果ガスの排出抑制に努めています。

奈良国立大学機構は、令和2(2020)年10月に政府が2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言したことを受け、温室効果ガスの排出量の削減等について、より一層努力していくことを目指します。



奈良教育大学環境方針



【基本方針】

奈良教育大学は、3つの柱（大学の特色）の1つとして、「1. 人・環境・文化遺産との対話を通じた教育の研究」を掲げています。「人と対話し、環境や世界遺産と対話すること」を通して、持続可能な開発目標の実現を目指す大学として、地域や社会へ貢献しています。

- ・省エネルギー、環境汚染の防止など、全ての環境負荷の低減に向けて持続可能な取り組みを展開します。
- ・学術的価値の高い遺物が多数出土するキャンパス環境の実現に向けて、緑化整備、環境美化、環境保全等において、全ての大学構成員の参加によるプログラムを推進します。
- ・環境に関する法令を遵守し、さらに自主管理規程を策定し、大学の社会的責任を果たします。
- ・持続可能な開発目標のひとつとして、大学における環境情報の整備・提供に取り組みます。

【作成方針】

「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律」（環境配慮促進法）の施行を機に、2021年6月に公表された「第4期中期目標期間へ向けた国立大学法人の在り方について－強靱でインクルーシブな社会の実現に貢献するための18の提言－」において、カーボンニュートラルの推進をはじめとする地球環境規模の課題を解決するとともに、高度にレジリエントで持続可能な社会の構築にこれまで以上に貢献していくとの決意が表明されました。

本学は事業者の責務（第四条）として事業活動に関し、環境情報の提供を行うこと等が努力義務として求められ、2021年12月より環境報告書を作成しました。第3期中期目標・中期計画における施設設備の整備・活用等に関する目標においては、省エネルギー対策として、構内の段差解消及びLED照明器具への更新等安全かつ環境にも配慮した計画的な施設整備を取り組んできましたが、なお一層の努力と独自の取り組みが必要であると考えています。

低炭素社会の実現に向け、2030年までを省エネ技術で一次エネルギー消費量を50%以上削減するZEB Ready（ゼブレディー）の取り組み期間とし、創エネ技術を加えて100%以上を削減するZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を見据えた先進建築物の施設整備を含めたキャンパスを目指し、今後も能動的に取り組んでいきたいと考えています。



奈良女子大学環境方針



【基本理念】

奈良女子大学は、地球環境問題が現代の最重要課題の一つであるとの認識のもと、本学における全ての活動において地球環境負荷の低減や環境保全等に努め、持続可能なキャンパスの構築を目指します。

【環境方針】

奈良女子大学は以下に掲げる方針に基づき、本学における全ての活動において地球環境負荷の低減や環境保全等に努めます。

1. 環境関連法規制の遵守

本学におけるすべての活動において環境に関する法規制を遵守し、環境負荷低減と環境保全に努めます。

2. 環境マネジメントシステムの構築

環境マネジメントシステムを構築し、環境配慮実施計画の策定、環境配慮活動の実施及び定期的な評価・見直しを通じて、環境に関する取組の継続的改善を図ります。

3. 環境安全管理活動の推進

本学の教育研究活動における安全な教育環境並びに研究環境を達成し、教育研究基盤の向上を図るとともに各種安全教育並びに啓発活動を効率的、総合的に実施します。

省エネ啓蒙ポスター

【各棟の掲示板やエレベーター、教室に掲示】



「省エネ」のためにできることから始めよう

階段の利用

階段利用の目安
上り2階・下り3階

三階を回避しつつ運動不足解消にも



「省エネ」のためにできることから始めよう

空調機による室温の管理

暖房時：20℃（室温）
冷房時：28℃（室温）

暖房時：設定温度-1℃ → 20%の節約
冷房時：設定温度+1℃ → 13%の節約
【得意な3Pより】



「省エネ」のためにできることから始めよう

こまめなスイッチOFF

教室等の未使用時
研究室等の不在時には
照明等のスイッチOFF

節電意識（省エネ）の向上を

3-3 環境マネジメントの取組



奈良教育大学環境マネジメント

奈良教育大学では、学長、副学長（教育担当）、副学長（企画・評価担当）、副学長（研究担当）、副学長（国際交流・地域連携担当）、副学長（附属学校園・渉外担当）、副学長（総務担当）からなる執行役会を設置しています。

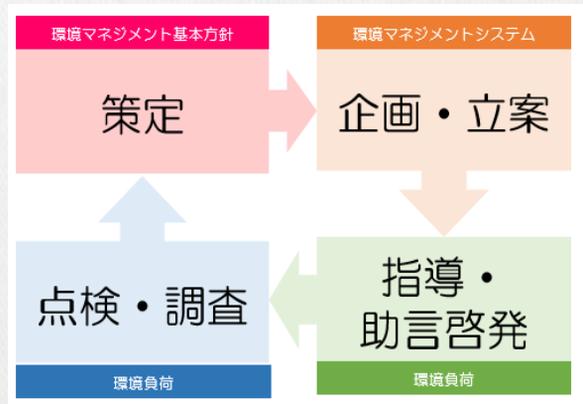
この執行役会では、奈良教育大学における教育研究の進展と調和した環境マネジメントシステムを構築するため、（１）環境マネジメントの基本方針の策定、（２）環境マネジメントシステムに係る企画及び立案、（３）環境負荷等に係る点検及び調査、（４）環境マネジメントに係る指導・助言及び啓発等を行っています。



奈良女子大学環境マネジメント

奈良女子大学では、4学部長、人間文化総合科学研究科長、保健管理センター所長、事務部長、各学部の教員、附属学校教員、事務局職員等からなる環境マネジメントシステム（EMS）検討専門部会を設置しています。

この検討専門部会では、奈良女子大学における教育研究の進展と調和した環境マネジメントシステムを構築するため、（１）環境マネジメントの基本方針の策定（２）環境マネジメントシステムに係る企画及び立案、（３）環境負荷等に係る点検及び調査、（４）環境マネジメントに係る指導・助言及び啓発等を行っています。



3-4 CO₂排出量削減の取組

日本政府が令和3(2021)年4月に令和12(2030)年度において、温室効果ガス46%削減(平成25(2013)年度比)することを目標として掲げたことを受け、奈良国立大学機構においても、この目標達成のため、下記の措置を実施することで、CO₂排出量削減及びカーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいきます。

1. 財・サービスの購入・使用
 - (1) 電動車の導入
 - (2) LED照明の導入
 - (3) 再生可能エネルギー電力の率先調達
 - (4) 省エネルギー性能の高い機器の率先導入

- (5) 再生紙等の再生品や木材の活用
- (6) その他環境負荷の低減に寄与する製品・サービスの購入・使用

2. 建築物の建築・管理

- (1) 太陽光発電の最大限の導入
- (2) 新築建築物におけるZEBの実現
- (3) 断熱性の向上、省エネルギー改修、木材利用の促進、省エネルギー診断、BEMSの活用

3. その他

- (1) プラスチック資源の循環
- (2) 超過勤務の縮減
- (3) テレワーク勤務の推進



～ 奈良女子大学生協エコプロジェクト ～

奈良女子大学生協生活協同組合は、使い捨てコンタクトレンズの空ケース回収に取り組んでいます。

空ケースをごみとしても燃やさないことでCO₂削減に貢献、また、再製品化されることで限りある資源の有効活用に繋がっています。

2023年度は2度にわたり、アイシティから感謝状を授与されました。リサイクルによる収益は、視力を取り戻す活動に寄付されます。



食堂前に回収ボックスを設置

2023. 5 6,090個回収
2023.10 5,930個回収



4 エネルギー使用量

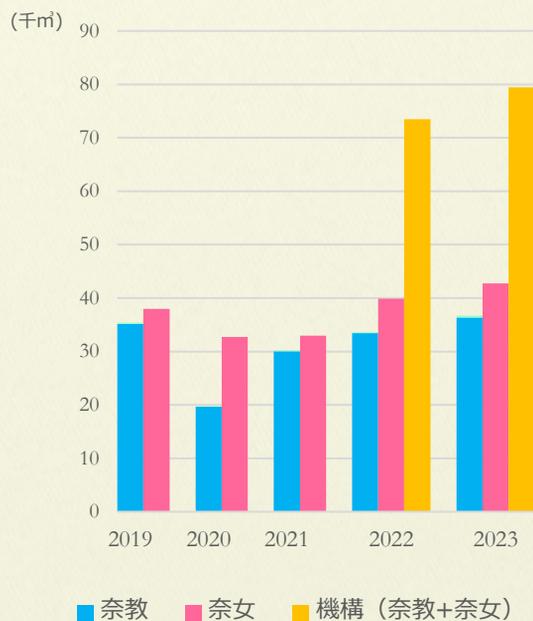
電気使用量



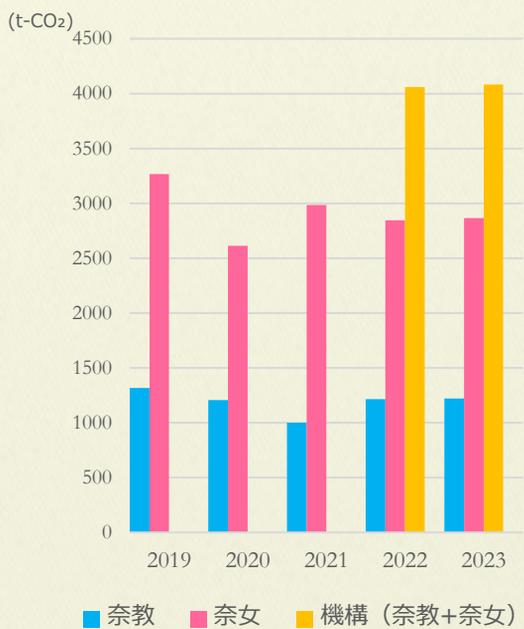
ガス使用量



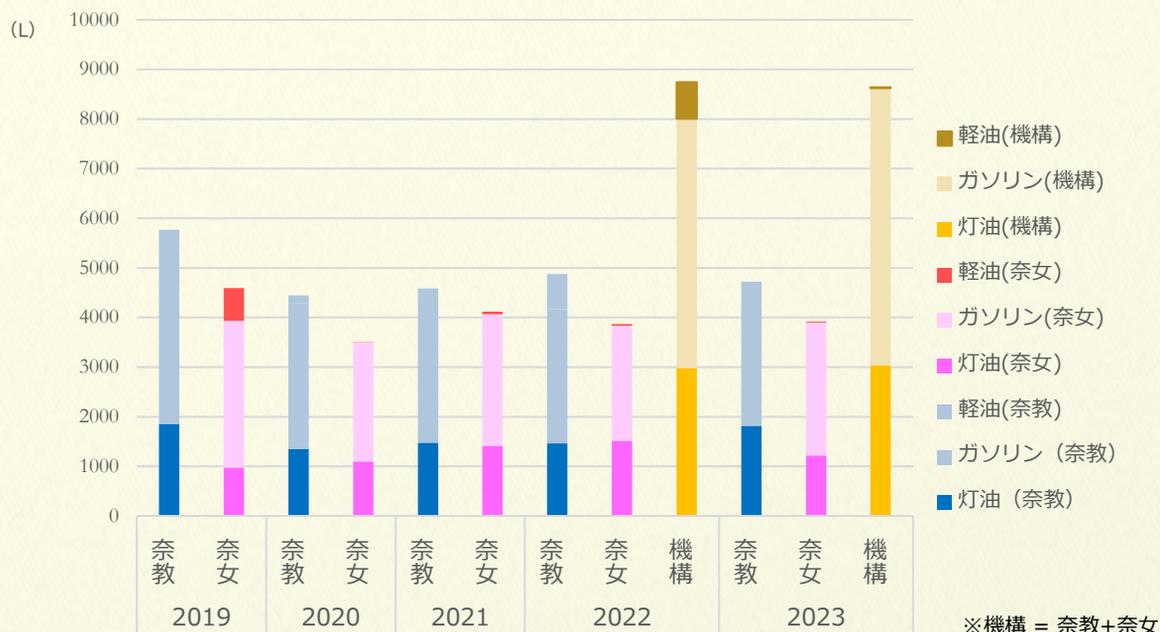
水使用量



CO₂排出量



灯油、ガソリン、軽油使用量



5 グリーン購入・調達の実績

特定調達物品調達実績 (過去5年分)

単位	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度				
	奈教	奈女	奈教	奈女	奈教	奈女	奈教	奈女	機構	奈教	奈女	機構	
紙類	kg	1,186	30,175	14,172	29,815	15,778	20,113	15,870	24,590	40,460	14,805	26,104	40,908
文具類	個	100,112	62,167	4,238	87,300	14,161	107,432	22,048	98,427	120,475	8,894	69,725	78,619
オフィス家具等	個	298	1,319	180	1,865	101	2,329	95	184	279	137	179	316
画像機器等	台	1,205	695	825	459	588	455	746	593	1,339	267	842	1,109
電子計算機等	台	1,957	452	1,944	1,123	31	474	109	402	511	156	664	820
オフィス機器等	台	347	145	210	206	1,259	260	1,318	201	1,519	1,298	188	1,486
移動電話等	台	0	0	0	0	0	2	0	6	6	0	0	0
家電製品	台	8	21	9	22	12	88	38	72	110	4	88	92
エアコンディショナー等	台	0	3	1	0	10	92	2	91	93	8	93	101
温水器等	台	0	0	0	0	2	71	3	72	75	0	72	72
照明	台	1,493	1,587	731	1,062	1,202	1,227	454	1,621	2,075	33	71	104
自動車	台	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
消火器	本	10	217	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
制服・作業服等	着	15	4	6	1	36	6	1	16	17	1	12	13
インテリア・寝装寝具	枚、㎡、個	71	120	1,298	172	2	202	310	49	359	53	48	101
作業手袋	双	0	84	0	119	6	148	1,344	113	1,457	114	140	254
その他繊維製品	点	7	1	21	8	3	2	23	4	27	9	5	14
設備	件	0	0	0	0	0	171	0	171	171	0	171	171
災害備蓄用品	本	0	785	0	1,109	0	1,109	340	34	374	0	10,440	10,440
役務	件	258	571	116	574	114	657	30	1,036	1,066	26	694	720
ゴミ袋等	枚	-	-	3,510	420	8,810	680	5,630	1,000	6,630	7,220	2,475	9,695

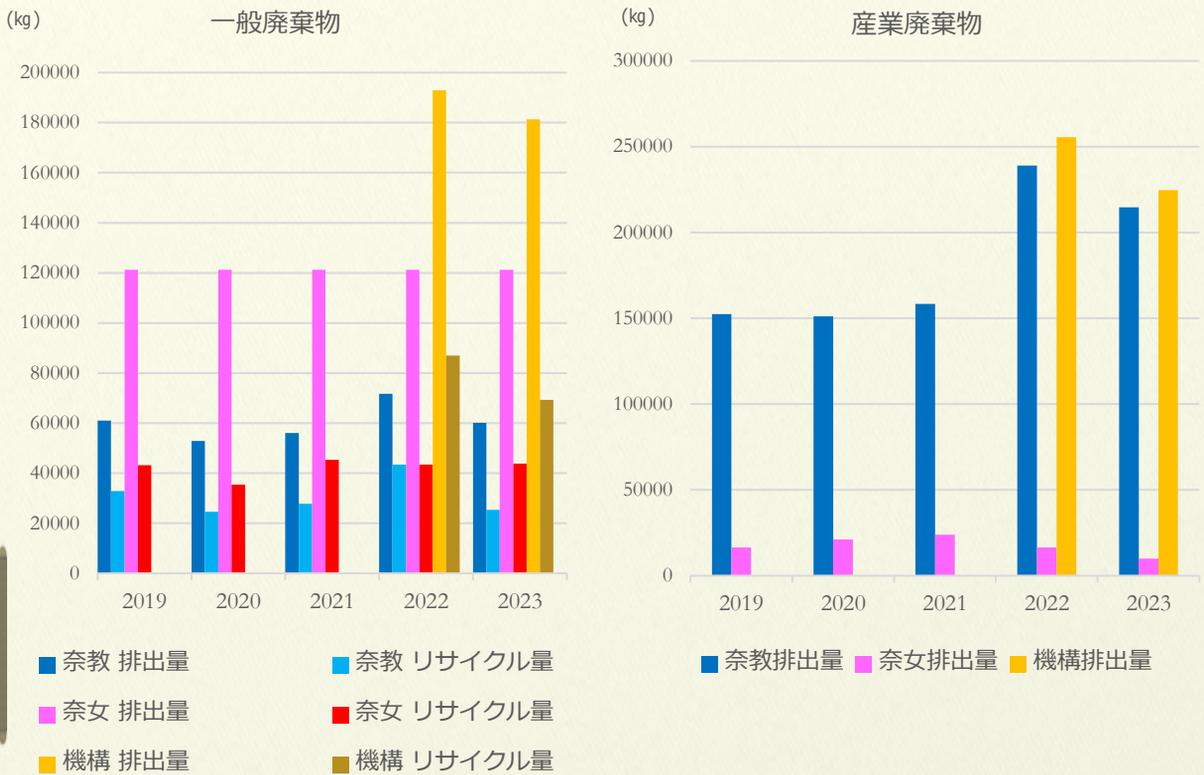
(注) 2019年度の「奈教」については、2020年度以降と算出方法が異なるため参考値

※機構 = 奈教+奈女

国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）に基づき、環境物品等の調達を行っています。今後も環境物品等の調達を推進していきます。

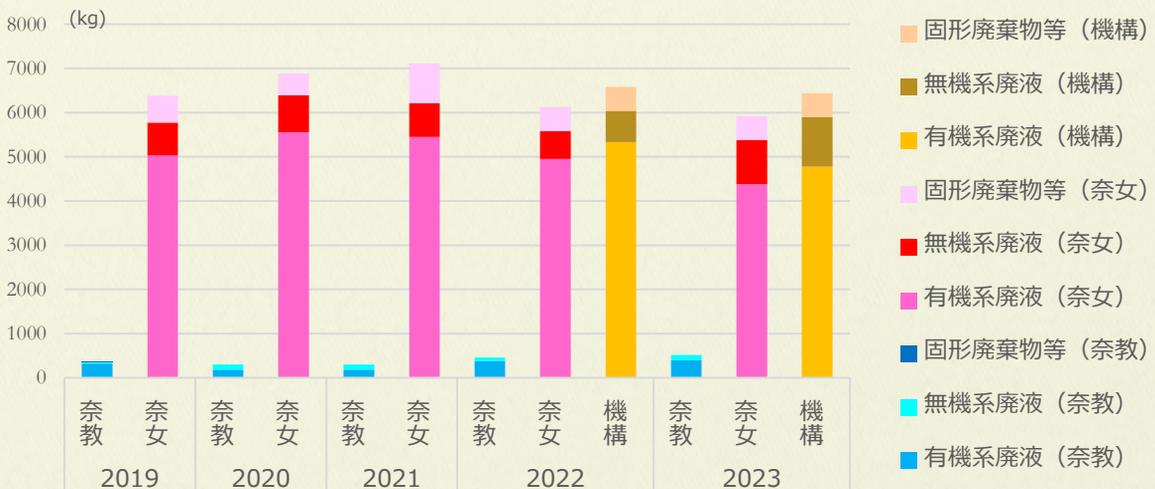
6 廃棄物・実験廃液・PRTR制度

● 廃棄物の排出量



廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）に基づき、産業廃棄物の運搬・処分を許可された業者に委託し、適正に管理・最終処分しています。

● 実験廃液の排出量



※機構 = 奈教+奈女

PRTR対象物質の取扱量

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」に基づく「PRTR制度」（化学物質排出移動量届出制度：Pollutant Release and Transfer Register）により、人の健康や動植物に有害な影響を及ぼす恐れのある化学物質について、毎年度、環境への排出量や事業所外への移動量を把握し、一定量を超える場合は行政機関に届出る義務が課せられています。

2023年度の実績（上位物質）は、奈良女子大学においては、ヘキサン487kg、ジクロロメタン459kg、クロロホルム309kg、また、奈良教育大学においては、ジクロロメタン130kg、クロロホルム30kgであり、いずれも、届出に必要な排出移動量（1,000kg）には達していません。今後も化学物質の適正管理に努めていきます。

▶データ一覧（過去5年分）

	単位	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度			2023年度			
		奈教	奈女	奈教	奈女	奈教	奈女	奈教	奈女	機構	奈教	奈女	機構	
エネルギー使用量	電気	kWh	2,143,324	6,625,219	1,865,239	5,271,611	2,098,774	5,507,311	2,062,448	6,105,287	8,167,735	2,089,598	5,998,891	8,088,489
		GJ	21,368.94	64,417.33	18,596.43	50,951.07	20,924.78	54,215.17	20,562.61	60,866.85	81,429	20,833.29	51,822.72	72,656
	ガス	m ³	223,008	418,018	200,980	401,817	222,129	401,775	212,752	410,381	623,133	201,080	391,534	592,614
		GJ	9,335.34	18,855.00	8,413.22	18,090.00	9,298.54	18,090.00	9,573.84	18,450.00	28,023.84	8,043.20	17,595.00	25,638.20
	灯油	L	1,857	974	1,351	1,100	1,474	1,410	1,466	1,512	2,978	1,818	1,220	3,038
	ガソリン	L	3,911	2,960	2,934	2,392	3,116	2,658	2,706	2,321	5,027	2,905	2,679	5,584
	軽油	L	0	660	160	12	0	48	707	33	740	0	17	17
	施設面積	m ²	51,079	84,563	51,079	84,563	50,856	85,083	51,926	85,083	137,009	51,949	85,083	137,032
	エネルギーの使用に係る原単位 (原油換算値)	KL/m ³	0.01548	0.0254	0.013674	0.02107	0.015222	0.02205	0.014964	0.02065	0.035614	0.56	0.02105	0.58105
	Co ₂ 排出量	t-CO ₂	1,317	3,266	1,205	2,612	1,001	2,985	1,215	2,844	4,059	1,220	2,864	4,084
水使用量	水道水	m ³	35,191	38,002	19,631	32,742	30,040	32,963	33,464	39,864	73,328	36,375	42,744	79,119
	井戸水	m ³	220	0	139	0	158	0	170	0	170	344	0	344
紙類使用量	紙類	kg	1,186	30,175	14,172	29,815	15,778	20,113	15,870	24,590	40,460	14,805	26,104	40,908
一般廃棄物排出量	一般廃棄物	kg	61,020	121,200	52,850	121,200	56,000	121,200	71,670	121,200	192,870	60,120	121,200	181,320
	リサイクル量	kg	32,820	43,170	24,620	35,390	27,800	45,300	43,470	47,070	90,540	25,420	43,854	69,274
	リサイクル率	%	53.79%	35.62%	46.58%	29.20%	49.64%	37.38%	60.65%	38.84%	46.94%	42.28%	36.18%	38.21%
産業廃棄物排出量	産業廃棄物	kg	152,370	16,533	151,110	21,048	158,410	23,928	239,090	16,478	255,568	214,671	9,945	224,616
実験廃液類排出量	有機系廃液	kg	320	5,029	180	5,560	180	5,449	380	4,955	5,335	400.7	4,379	4,780
	無機系廃液	kg	43	746	120	836	120	768	80	628	708	115.133	1,001	1,116
	固形廃棄物等	kg	3	605	0	492	0	894	0.001	542	542	0	542	542

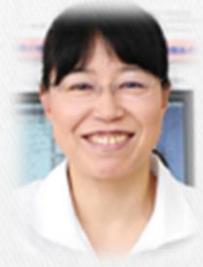
※機構 = 奈教+奈女

7 環境教育

- カーボンニュートラルに向けた教養教育プログラム -

奈良女子大学 研究院自然科学系 教授 村松 加奈子

世界各国で2050年カーボンニュートラルを目標とする動きが広がり、日本においても、2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すべく、国・地方自治体・企業等が取り組みを始めている。文部科学省・経済産業省・環境省の先導のもと2021年7月に総合地球学研究所が事務局となり、カーボンニュートラル達成に貢献する「大学等コアリッション」が設立され、4つのワーキンググループ(ゼロカーボンキャンパス、地域ゼロカーボン、イノベーション、人材育成)で活動が行われており、本学は人材育成WGに参加している。



これまで本学では教養プログラムの一貫として所属学部での学習に加え、地域志向、グローバル、ジェンダーのテーマ性をもった学びを収めたことを証明する「副専攻プログラム」を実施してきた。この副専攻プログラムにカーボンニュートラル分野に貢献する人材育成を目的とした「カーボンニュートラル」を2024年度より実施するため、準備を進めた。「大学等コアリッション」の会議においても、どのような人材を育成すべきかについては、議論がなされているところである。脱炭素社会の実現のため、省エネルギー技術や再生可能エネルギーの技術革新が重要であると同時に、生活様式や社会の仕組みなどに関しても、これまでの価値観に捉われない新しいアイデアの創出が必要である。そのためには、環境問題・社会情勢の基礎知識、自分の専門を軸として、分野の異なる人や利害関係が異なる人と協力し異分野の融合や異分野間のコーディネートができる人材育成が必要であると考へた。

そこで、グローバルな環境問題の視点から地域や現場での問題解決に対して、バックグラウンドや立場の異なる者同士で新しい価値やアイデアを生み出す体験を通し、共創力やコーディネート力を身につけることを目的とした「未来共創コーディネート演習」をたちあげ、必修科目とした。その他、基礎的な知識の学習のため、教養科目群より、「共生科学」、「現代の倫理」を必修科目とし、受講が望ましい科目に「国際関係論」、選択科目で、「自然環境の地理学」、「地域の人と暮らし」他、各学部の専門科目で自然環境、環境地理学、倫理学、地球環境科学、地球化学、環境リスク論、環境・防災科学、河川・海岸工学、食や山村での暮らしをテーマとしたゼミナールの科目群と、本学では環境政策など網羅できない部分については、三重大学のSciLets(科学的な地域環境人材育成事業)の連携パートナーの協働機関として、指定した科目を受講できるようにした。

Metatomo 未来共創ネットワークセミナー

講師: 当麻 潔氏
(奈良トップ環境化の会 理事長)

セミナーコーディネーター/司会:
瀬戸 麗美 (奈良女子大学)

コメントーター:
村松 加奈子 (奈良女子大学)

参加登録:
<https://forms.gle/UFJkZwihKZfH9KH9>

#1 気候変動問題とセンター/NASOの活動

日時: 2023年6月9日(金) 9:00 - 11:00
開催形式: 対面+オンラインハイブリッド・要事前登録
対面開催場所: 奈良女子大学奈良カレッジ交流テラス (下回参照)

前半 (9:00 - 10:30)
大学卒業生対象レベルで気候変動の現状と国内外の情勢について話題提供いただき、これまでの奈良トップ環境化の会の活動や奈良県・奈良市の環境政策の動向についてご紹介いただく。

後半 (10:30 - 11:00) 対面実施のみ
今後の産学連携プロジェクトの展開を見届け、時々のカーボンニュートラル関連の補助金や助成金の交付動向についてご紹介いただく。

自然環境・防災科学センター
(対面開催会場)

主催: 奈良女子大学環境化推進委員会
後援: 環境政策推進センター (NASO) 産学連携推進センター

第1回

講師 杉本和也氏
(杉本森林総合監理士事務所)

セミナーコーディネーター/司会:
村松 加奈子 (奈良女子大学)

参加登録
<https://forms.gle/SJveQLH55uQmR8>

#2 奈良県初の「J-クレジット」森林プロジェクト
登録の経験から～地域で育む森林～

日時: 2023年10月30日(月) 13:00 - 15:00

開催形式: 対面+オンラインハイブリッド(※要予約)

対面開催場所: 奈良女子大学理学部G棟 G302教室(後援部)

開講(13:00～14:30) 理学部G棟G302教室(オンライン)

講演(14:30～15:00) 対面実施のみ(理学部G棟G307室)

今後の学習連携プロジェクトの展開を予定。現在の時期まで見送ると、今後のプロジェクトの可否はむかしの通信交換部が決定。

奈良女子大学G棟G302教室
(理学部理学部理学部)

奈良女子大学理学部
〒630-0192 奈良県奈良市大和町
TEL: 0742-231111 FAX: 0742-231112

第2回

また、次年度の「未来共創コーディネート演習」開始に向け、2023年度に2回の「未来共創ネットワークセミナー」を実施した。第1回目は、「奈良ストップ温暖化の会(NASO)」理事長の当麻潔氏による「気候変動問題とセンター/NASOの活動」、第2回目は、杉本森林総合監理士事務所の杉本和也氏による「奈良県初の「J-クレジット」森林プロジェクト登録の経験から～地域で育む森林」である。

尚、本プログラムでのメインの演習として「未来共創コーディネート演習」を設計したが、今後、脱炭素社会実現に向けて必要とされる人材像もさらに多岐にわたることが考えられる。今後さらに必要とされる能力を育成する演習科目の新設の検討も必要であろう。

8 環境に関する地域との取組



奈良女子大学 大和・紀伊半島学研究所

- 「リカレント教育プログラム」報告-

大和・紀伊半島学研究所では、「総合流域学」のコンセプトに従い、河川流域を一つのまとまりとしてとらえ、その自然・環境的側面、歴史的側面、及び人文・社会的側面について総合的に学ぶ「リカレント教育プログラム」提供していくことを計画している。

2023年度のトライアル授業では、地元東吉野の住民や研究所にゆかりのある自治体職員等の参加のもと、以下のようなプログラムを実施した。



◆河川実習

東吉野村旧四郷小学校近くを流れる四郷川にて自然河川の構造を観察し、環境計測を行い、そこに生息する生物を採集・観察・分類することで、河川が生み出す環境と生物の多様性について学んだ。

◆つくばね小水力発電所見学

大規模なダムとは異なる特徴をもつ小水力発電の仕組みと利点と課題を学び、流域を通じた水力の有効利用や再生可能エネルギー全般について考えるきっかけとなった。





奈良教育大学 ユネスコクラブの活動

ユネスコクラブは、ESD（持続可能な開発のための教育）を活動の軸に「ESDを実践できる教員になること」「ESDを楽しく追究すること」の2つを目的として、様々な活動を展開している。特に環境教育に関わる活動として、意識啓発に関わるイベントや体験プログラムなどを積極的に実施している。



奈良教育大学イメージキャラクター“なつきょん”

◆アースデイ奈良2023

【実施日】2023年4月20日（日）

奈良公園で毎年4月に開催されるアースデイ奈良2023（主催：アースデイ奈良実行委員会）に実行委員会メンバーとして関わり、メインステージでの司会進行を担った他、奈良市長との対談などを附属中学校ユネスコクラブと共に実施した。運営面での様々な環境配慮に触れる機会となり、参加学生の環境意識の向上と行動化をより意識することにつながった



◆あつまれECOキッズ！2023

【実施日】2023年12月9日（土）

奈良市が主催する環境イベント「あつまれECOキッズ！」において、運営スタッフとして参画した。子どもたちに環境に関わる仕事について体験してもらう「ECOキッズおしごと体験」では、プログラムの進行役を務めた。また、エコに関わる体験プログラムについても出展し、環境問題への意識啓発をおこなった



◆奈良公園・春日山原始林フィールドワーク

奈良公園周辺には、社寺だけでなく、平安時代に禁伐地となった春日山原始林をはじめ貴重な自然環境が維持されていると同時に、課題を抱えている。この資源を活用した学びの機会をつくること、また、学生のみならず教員においても自然体験が少ない傾向が見られることから、年間を通じてフィールドワークを実施している。



9

環境省「環境報告ガイドライン2018年版」との対応表

第1章 環境報告の基礎情報	ページ	参考資料	ページ
1. 環境報告の基本的要件		主な環境課題とその実績評価指標	-
報告対象組織	裏表紙	1. 気候変動	
報告対象期間	裏表紙	温室効果ガス排出	
基準・ガイドライン等	-	スコープ1 排出量	9
環境報告の全体像	4-8	スコープ2 排出量	-
2. 主な実績評価指標の推移		スコープ3 排出量	-
主な実績評価指標の推移	9-12	原単位	
2. 2 温室効果ガス排出原単位エネルギー使用		9	
2. 2 エネルギー使用			
2. 2 エネルギー使用量の内訳及び総エネルギー使用量	1	9	
2. 2 総エネルギー使用量に占める再生可能エネルギー使用量の割合		-	
2. 2 ガバナンス		2. 水資源	
事業者のガバナンス体制	4-8	水資源投入量	9
重要な環境課題の管理責任者	4-8	水資源投入量の原単位	9
重要な環境課題の管理における取締役会及び経営業務執行組織の役割	4-8	排水量	9
3. ステークホルダーエンゲージメントの状況		事業所やサプライチェーンが水ストレスの高い地域に存在する場合は、その水ストレスの状況	-
ステークホルダーへの対応方針	13-15	3. 生物多様性	
実施したステークホルダーエンゲージメントの概要	13-15	事業活動が生物多様性に及ぼす影響	9-12
4. リスクマネジメント		事業活動が生物多様性に依存する状況と程度	-
リスクの特定、評価及び対応方法	4-8	生物多様性の保全に資する事業活動	13-15
上記の方法の全社的なリスクマネジメントにおける位置付け	4-8	外部ステークホルダーとの協働の状況	-
5. ビジネスモデル		4. 資源循環	
事業者のビジネスモデル	-	資源の投入	
6. バリューチェーン マネジメント		再生不能資源投入量	-
バリューチェーンの概要	-	再生可能資源投入量	-
グリーン調達の方針、目標・実績	10	循環利用材の量	11
環境配慮製品・サービスの状況	10	循環利用率 (= 循環利用材の量 / 資源投入量)	11
7. 長期ビジョン		資源の廃棄	
長期ビジョン	4-8	廃棄物等の総排出量	11
長期ビジョンの設定期間	-	廃棄物等の最終処分量	11
その期間を選択した理由	-	5. 化学物質	
8. 戦略		化学物質の貯蔵量	-
持続可能な社会の実現に向けた事業者の事業戦略	4-8	化学物質の排出量	12
9. 重要な環境課題の特定方法		化学物質の移動量	12
事業者が重要な環境課題を特定した際の手順	4-8	化学物質の取扱量(製造量・使用量)	12
特定した重要な環境課題のリスト	4-8	6. 汚染予防	
特定した環境課題を重要であると判断した理由	4-8	法令遵守の状況	9-12
重要な環境課題のバウンダリー	-	大気汚染規制項目の排出濃度、大気汚染物質排出量	-
10. 事業者の重要な環境課題		排水規制項目の排出濃度、水質汚濁負荷量	-
取組方針・行動計画	4-8	土壌汚染の状況	-
実績評価指標による取組目標と取組実績	9-12		
実績評価指標の算定方法	9-12		
実績評価指標の集計範囲	9-12		
リスク・機会による財務的影響が大きい場合は、それらの影響額と算定方法	-		
報告事項に独立した第三者による保証が付与されている場合は、その保証報告書	-		

Since 2022.4.1

国立大学法人
奈良国立大学機構

Nara National Institute
Of Higher Education And Research



奈良教育大学

Nara University of Education



奈良女子大学

Nara Women's University

奈良教育大学と奈良女子大学は、令和4年4月に法人統合し、「奈良国立大学機構」を設立しました。

2つの大学が1つになるのではなく、奈良教育大学も奈良女子大学も存続し、それぞれ異なる強みを相互に提供しあい、これまでにない新しい国立高等教育機関として、教育・研究面の機能強化を進めています。



対象組織 国立大学法人奈良国立大学機構

奈良教育大学（高畑団地、佐保田団地、白毫寺団地、上高畑団地、大塔団地、紀寺団地）

奈良女子大学（北魚屋団地、半田団地、学園北団地、百楽園団地、東紀寺団地、法蓮団地、紀寺団地、北小路団地、吉野団地）

対象期間 令和5（2023）年4月～令和6（2024）年3月

発行日 令和6（2024）年9月

問合せ先 国立大学法人奈良国立大学機構施設課

〒630-8506 奈良県奈良市北魚屋東町

E-mail : kikaku@jimmu.nara-wu.ac.jp

TEL : 0742-20-3223

<http://www.nara-ni.ac.jp/disclosure/public-subject.html>